

第四系コア観察カード

調査名				孔番	H27B-2	観察日	6/23
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ 火山灰物 山質化石 炭土貝木	地質名	色調	堆積構造・特徴等
4.00	4.10				盛土	10YR 6/4	
5.00					盛土	10YR 6/4	
6.00					盛土	10YR 6/4	
7.00	7.00			板の破片	盛土	7.5YR 5/4	
8.00						7.5YR 5/4	

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日
		H27 B-2	
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界 スケッチ	マーカ 灰物石 山質壤化石 炭土貝木
8.00	8.50	9.00	10.00
10.00	10.50	11.00	11.50
12.00	12.00		
地質名	色調	堆積構造・特徴等	
不 明 土	7.5YR 5/4 15.5° 福✓ 7.5YR 6/1 灰福✓ 7.5YR 4/1 福✓ 10YR 7/6 明灰福✓ 10YR 6/6 明灰福✓ 10YR 9/8 明灰福✓		

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		H27-B-2		6/23			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 炭質土 土質 木片			
	12.33m			○ r	土	10YR 5/6 黄褐	12.33~12.75m 石礫率 70~80% でクサリ石礫を 含む。 ・石礫種は Gp と一部 Ap の石礫径 は 2~100mm で一部最大径 200mm の礫が認められる。 ・亜角石礫が主体。 ・12.68~12.80m 付近にマンガン濃 集帯が認められた。
	12.75m			○ r	砂礫	10YR 4/4 褐	
	13.00m			○ r	石礫混じり砂	10YR 5/1 褐灰	
	13.53m			○ r	砂	2.5YR 6/4 赤	12.75~13.00m 石礫率 5~10% でクサリ石礫を 含む。 ・石礫種は Gp の石礫径は 2~10mm。 ・亜角石礫が主体。
	14.00m						基岩
	15.00m						
	16.00m						

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アブライト Ap 等
 境界 明瞭 — 不明瞭 - - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度		観察日								
		H27B-2 (10 ~ 15)		6/24								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
11.00m												
12.00m												
13.00m												
	13.53m			7.5YR 7/3 R2.5 橙					3			「相対的軟弱部」の「音照」 ↑ 音照 13.53~13.82m: CL 2.2D 事件で、0.30割れ目が多い。全体の風化し、 一部の割れ目には砂状化が進む。 14.91m付近 幅4mmで傾斜15°の石英脈が認め 5れ了。 詳細
14.00m	14.00		GP	10.5R 7/3 =3.0 黄橙	C	V	D	8	3		CL	14.55~14.68m付近 割れ目沿いにマンガン濃集部 が認め5れ了。一部(14.55~14.63m) で土砂化が5生して5了。
0.5									3			
	14.89m											14.89~15.00m スライムのため判別不可
15.00												

調査名		孔番・深度		観察日		基盤岩コア観察カード									
		H27B-2 (15 ~ 20)		6/24 1/20		記事・破砕性状・詳細スケッチ等									
標尺 (m)	深度 (m)	境界亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分			
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質						
	15.09		スライム	7.5YR	x	x	x	x	x	x	x		15.00 ~ 15.09m スライムのため判別不可		
				7/2 明細反								CL	15.62 ~ 15.66m 何 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり		
										03			15.80 ~ 16.00m 何 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり		
16.00m															
										04			16.50 ~ 16.51m 何 割れ目に沿って緑泥石が発達		
													16.76 ~ 16.86m 何 マンガン濃集部が密集している		
17.00m	17.16		GpV		x	x	δ	3				CL	16.92 ~ 16.93m 何 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり		
													17.10m 何 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり 17.16m 以降は割れ目→→→		
05										04			17.57 ~ 17.64m 何 割れ目に沿って緑泥石が発達		
													17.70 ~ 17.80m 何 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり		
18.00m													17.90 ~ 17.94m 何 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり		
05	18.57														
19.00m				7.5YR 7/4 明細反						10	10				
05	19.59				x	x							19.59 ~ 19.80m 10% 程度向下方へ割れ目あり 19.70m 以下は17.16mの造り単位に代り		
	19.70				x	√	D	ε	3						
	19.80				x	√	D	ε	3						
20.00m				7.5YR 7/2 明細反		√	D	δ		6	6				

↓
7/20

調査名		孔番・深度		観察日									
		H27 B-2 (20 ~ 25)		H27 7/20									
標尺 20 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
05													
21					ε	IV	D	δ	3	12	12		20.90m 割れ目径約10% 砂化。
05													21.90m 4/100% 石英 60° 割れ目 (sj) 2-basho (22.10/m)
22	21.79		Gp	25YR 7/2 明褐色	*	*				0	8	CL	21.79 ~ 21.82m 硬さ「c」の層で「a」 硬さ「D」も含まれる層の交互に出現。 割れ目径に風化・砂化の部分が多い。
05													22.18 ~ 22.19m 硬さ「B」の硬質
23					c	IV	C	γ	3	23	23		
05													23.52 ~ 23.82m 20° の割れ目径 厚さ 10/m 円筒状の灰褐色粘土状の層。
24										27	15		
05													
25										0	7		

調査名		孔番・深度		観察日								
		427 B-2 (25 ~ 30)		427 7/20								
標尺 25 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
05												25.31m. 20°割れ目には 10.5% ~ 17% の微細な雲 ⇒ (セリウム?) の晶出 (20d).
26									11	11		25.84m. 74°の割れ目(SJ)は 交差角 5~10°の割れ目 に比して (ただし、量 1~3%) .
05												
27	26.82		Gp	スフィ 1/2 明揚灰					0	7	C2	26.82m 以降は 硬く「D」の主体と判る.
05												27.15m. 65°割れ目に 幅 2~3% の軟質深層へ圧縮 が認められる.
28	28.02								0	9		28.91m. 20°の幅 1% の深層へ交差角 85°の割れ目(SJ) に 70% 1% の割れ目と 20% の割れ目に 変形 (20d) (ただし は不明)
05												28.02m 以降 10% の割れ目の同化割れ目、発達し、 層状に 浮遊化 (20d). 割れ目には 同化の強化が 20% 程度.
29									0	3		
05												
30	29.88 30.00								0	4		29.88~30.02m D 層は 10% の浮遊化と判る

調査名		孔番・深度		観察日		H27 B-2 (30 ~ 35)		H27 7/20、8/4			
標尺 30 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<h3>基盤岩コア観察カード</h3> <p>記事・破砕性状・詳細スケッチ等</p>
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
05	32.10		25YR 7/2 明褐色	C	V	E	δ	3	D		同化の割れ目等に砂化の加工(2m). φ<20μmの砂で「C」部が多量存在、特に「砂 破砕」に多い。 基質は砂状部が主体で砂の、及び粘化部が散在し ている。 岩組織の一部の割れ目は滑溜(2m).
	30.70	30.82									
05	31.15	31.24 31.33	25YR 7/3 黄褐色	C	V	E	δ	3	HJ H0 Hc-2	HJ	31.15 ~ 31.66 m : 破砕帯 (主断面 31.29 m) 31.15 ~ 31.34 m : HJ 上端20°連続的、下端15~28°で連続(2連続)。一部粘化部 φ<5~10μmの粘土と粘片間の粘土(10~20%)粘化部が 多い「粘土混り粘片状」に多い。色調は10YR 7/2 厚さ40~90μm 31.24 ~ 31.28 m : Hb 上端15~28°で連続(2)、下端30°で連続(2連続)。φ<2~3μm の粘土、φ<5~10μmの粘土と粘片間の粘土(20~30%)粘化部 同様の「粘土混り粘片状」に多い。色調は明褐色(25YR 7/4) 厚さ20~30μm 31.28 ~ 31.29 m : Hc-2 30°で上端粘化部、下端15°連続的に連続 φ<2~3μm の粘土、φ<5~10μmの粘土と粘片間の粘土(20%)粘化部 同様の「粘土混り粘片状」に多い。色調は黄褐色(10YR 7/2) 厚さ5~10μm 31.29 ~ 31.66 m : HJ 上端30°連続的、下端13°で連続(2連続)。φ<20μm の粘土と粘片間の粘土(20%)粘化部(粘化部)と粘片間の粘土(20%) 多い「粘土混り粘片状」に多い。色調は10YR 7/3、 厚さ350μm(27厚)。
	31.66	31.78									
05	32.56		25YR 7/2 明褐色	C	V	E	δ	3	D		33.00 ~ 33.25 m : 粘化部、岩組織不明瞭な砂状部 主体 割れ目の一部は滑溜(2m).
	33.35	33.4									
05	33.96		25YR 5/3 黄褐色	C	V	E	δ	3	Hc1 Hb	C2	33.76 m : 粘片不明瞭な砂状部主体 割れ目の一部は滑溜(2m).
	34.37	34.48									
35											

調査名		孔番・深度		観察日								
		H27 B-2 (40 ~ 45)		H27 / 20								
標尺 4D (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
05	40.23		Gp	25YR 1/2 明褐色	✓	✓	✓					39.70 ~ 40.23 m : D 粘組織と割れ目残存。一部で割れ目は厚さ10%程度の砂化。
	40.73			25YR 3/4 灰褐色	✗	✗						
41	41.90		Gp	25YR 1/4 灰褐色	✓	✓			✓	✓		41.70 ~ 41.90 m : D 粘組織と割れ目の砂化。一部は消滅し、一部は残存。
	42.37			10YR 1/4 黄褐色	✓	✓	✓		✓	✓		
43	43.94		Gp	10YR 1/4 黄褐色	✓	✓	✓		✓	✓		43.09 ~ 43.30 m : D 粘組織と割れ目の砂化。一部は消滅し、一部は残存。
	44.20			25YR 1/2 明褐色	✓	✓	✓		✓	✓		
05	44.73		Gp	25YR 1/2 明褐色	✓	✓	✓		✓	✓		43.94 ~ 44.96 m : CL 粘組織と割れ目の砂化。一部は消滅し、一部は残存。
	45.00											

調査名		孔番・深度		観察日							
		H27 B-2 (45 ~ 50)		H27 12/1 9/1							
標尺 4.5 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
	0.5			25YR 7/2 明褐色	✓ c	✓ v	δ	3			45.10 ~ 45.25 " 硬2「c」の浸透部が分布
4.6	45.96				γ	x		3	CL	45.96 ~ 46.31 " 同1は硬2「c」の浸透。割れ目は厚さ1mm程度の砂状の付着。	
	0.5		Gp		c	v	γ	2			
	46.31				x	x					
	0.5				c	v	δ				
	47.06							5			46.74 ~ 46.85 " 割れ目は砂状の浸透 硬2「E」の主成分 47.90 ~ 47.96 " 硬2「E」の主成分 1 ~ 3mm程度の浸透 幅1 ~ 2mmの脈状で露出。全体の硬2「c」の浸透。
4.7	47.06										
	0.5		TE	10YR 5/3 黄褐色	✓ d	✓ v	E	3		DV	47.06 ~ 47.50 m : D 岩組織と割れ目は消滅(2mm)。 硬2「D」主体の約10%の細粒化(2mm)。
	47.50										
	0.5			2.5YR 7/2 明褐色	✓ c	✓ v	D				47.50 ~ 48.00 m : CL 47.85m 以降は硬2「D」主体。47.85m 以降は硬2「c」 主体。47.85m 以降は硬2「D」割れ目の一部に砂状 の浸透。岩片自身の粒化(2mm)。
	47.85										
	47.90							4		CL	
4.8	47.90										48.12 ~ 48.16m 上端20" 下端20"の割れ目に同様の系統の 砂状の付着。
	0.5				E	IV	c	2			48.40 ~ 48.49 " 上記と同様の付着。砂状の付着。 48.49 ~ 48.88m 60mm 割れ目封鎖。割れ目には砂状の 浸透物が分布する。(2.5割れ目は既に断面と同様の付着)
	48.52										
	48.88							8		DV	
4.9	48.92				80	VI	E	4			48.88 ~ 48.92m : 破砕帯(主に断面 48.88m) 48.88m : Hc-2 60" 上端より連続的に連続。中5 ~ 10%の石英粒と20% 程度含石質の粘土(砂状)。色調は黒褐色(10YR 3/1) 厚さ1mm。コンクリート付着付着。 48.88 ~ 48.92m : Hc 上端56" 下端52" まで連続的に連続。中5 ~ 10%の石英粒 中5 ~ 10%の石英粒の岩片と20 ~ 30%の含石質の粘土の 粘土状の付着。下端52" まで連続的に連続。 色調は黒褐色(10YR 4/2) ~ 黒褐色(10YR 4/2) 下底部のみ、厚さ 20mm。
	0.5			2.5YR 7/3 暗褐色	✓ c	✓ v	c	2		CL	48.92 ~ 48.96m : CL 粘土 5cm前後の粗粒の付着。主体。
	48.96							14			
5.0	48.96							14			

8/10
返送
48
55

調査名		孔番・深度		観察日		基盤岩コア観察カード						
		H27 B-2 (50 ~ 55)		H27 7/21		記事・破砕性状・詳細スケッチ等						
標尺 50 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				変質
05				25YR 7/3 15%黄緑	✓ c	✓ IV	✓ c	δ	2			49.00 ~ 49.34 m: 割れ目には風化の砂状化の進行、コアは → 割れ目40%に乱れ、外周は碎状コア(20%) 割れ目には風化の砂状化の進行、岩層割れ目40% の、10%の割れ目がある。 深さ50%の土体200%、風化の砂状化の進行、中程度の 硬さの土体を含む。 50.44 ~ 50.67 m: 深さ50%の硬さ、上下端は砂状化している。
51										✓ 10	✓ 10	51.15 ~ 51.50 m: 上下端は石英結晶の5~15%と大 型化の(上下端は10%の石英結晶)。
05	51.51				x						CL ✓	51.51 m: 風化の進行、割れ目には砂状化 の70%、10~30%の硬さの土体を含む。砂状化の 進行は少ない。
52			Gp	10YR 7/3 15%黄緑	✓ c	✓ IV	✓ c	δ	3	✓ 10	✓ 9	52.18 ~ 52.20 m: 「細粒状」の粗粒状、状態良好
05	52.92				x							52.92 ~ 52.99 m: CM 割れ目硬質の土体、一部は容易な風化の割れ目を含む 土体。 割れ目には厚さ2~3%の砂状化の土体が多い。
53					x					✓ 11	✓ 11	52.99 ~ 53.20 m: CL 割れ目には砂状化の進行、割れ目には割れ目が多い。
05	53.20				✓ c	✓ IV	✓ c	δ				53.20 ~ 53.55 m: D 岩層割れ目には残留物、割れ目には残留物、10%の割れ目 が多い、深さ50%の10%程度の割れ目がある。
05	53.54			25YR 7/2 15%黄緑	✓ c	✓ IV	✓ D	δ	3			53.55 ~ 54.10 m: CL 一部は硬質の土体、岩層の割れ目、全体は不均質 な土体、割れ目には砂状化の進行。
54										✓ 10	✓ 4	54.10 ~ 54.72 m: D 風化の砂状化の進行 54.37 ~ 54.46 m: 土体硬質「E」の割れ目、残留物。 54.60 m: 風化の砂状化の進行。
05	54.60			10YR 7/3 15%黄緑	✓ c	✓ IV	✓ D	δ				
	54.72											
	54.77			25YR 7/2 15%黄緑					8	4		54.72 ~ 54.77 m: 破砕帯(主に新面、54.77 m)
55										✓ 10	✓ 4	54.72 ~ 54.77 m: H6 上端60%の割れ目、下端39%の割れ目、連続、10~4%の石英結晶

48
51
51
51

518
54
57

調査名		孔番・深度		観察日		基盤岩コア観察カード							
		H27 B-2 (55 ~ 60)		H27 7/21 7/21		記事・破碎性状・詳細スケッチ等							
標尺 55 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分			
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				風化	変質	
0.5	55.24		Gp	2.5YR 7/1 明赤灰	✓d	✓VI	✓E	δ	4	0	3	D✓	粘土化率 95~10% 割れ目 30~50% 含む軟質な「凝灰粘土」 の「凝灰」(粘土) 量が、マッシュ試験の一部に1%の 色調は明褐色(5YR 7/2) 厚さ 40~50mm -54.77m: Hc-1 39% 下部は連続的に連続。硬粒、割れ目は存在。含まれる (5%以下) 軟質粘土(粘土)。色調は灰褐色(2.5YR 5/6) 厚さ 30mm 54.77 ~ 55.24 m : D 全体に粘土化 55.00m 以下は、マッシュ試験でマッシュ試験部に粘土化を含む 55.00m 以下は、白色粘土部と赤褐色粘土部と 多く含む。 55.24 ~ 57.70 m : CL 深部は、割れ目の主体 割れ目には、風化の進行部と硬質の粘土部と軟質部 も分布する。 割れ目には、マッシュ試験で、割れ目と同一色の粘土化が 多くある。 56.03 ~ 57.00m 以下 割れ目には、風化の進行部と、残留部 硬質部と10% 割れ目には、外層には、砂質粘土化が 57.00 ~ 57.45m 以下 凝灰度の低い割れ目の凝灰、 90% 程度は、粘土化(2mm)。 各層の硬質の「粘土」と硬質部も多く含む。 57.45 ~ 57.70 m 割れ目には、粘土化の進行、全体に 上位に粘土化の進行。 57.70 ~ 57.99 m : D 凝灰部は、割れ目には、硬質部と軟質部と、 部は、粘土、粘土部と硬質部と、 57.99 ~ 58.28 m : CL 割れ目には、20~30% 割れ目と10~30% 間隔で同様の凝灰 マッシュ試験部が 58.28 ~ 58.73 m : CM マッシュ試験で、割れ目には、黒褐色化が、砂質粘土との 浸透物は、分布する。 58.73 ~ 59.71 m : CL 割れ目には、粘土化、凝灰度の低い割れ目の多 全体に、粘土。 59.35 ~ 59.54 m (16) は、粘土の主体 59.71 ~ 60.00 m : D 凝灰部は、粘土部と硬質部と、10% 程度の割れ目が、 「砂質粘土」を呈する。
	56	56.29			10YR 7/2 灰黄褐色	✓c	✓V	✓D	δ	3	0	3	
0.5	57			10YR 7/2 灰黄褐色	✓c	✓V	✓E	δ	3	0	3	D✓	
	58	57.45		10YR 7/2 灰黄褐色	✓c	✓V	✓E	δ	3	0	3	D✓	
0.5	59			2.5YR 9/3 暗赤褐色	✓b	✓IV	✓B					CM✓	
	59	58.28			✓c	✓V	✓C					CL✓	
0.5	59			2.5YR 7/2 灰黄褐色	✓c	✓V	✓D			0	9	CL✓	
	60	59.71			✓c	✓V	✓B					CL✓	
60	60.00			2.5YR 4/2 灰黄褐色	✓d	✓VI	✓E	E		0	3	D✓	

